

# 中学校第1学年 英語科学習指導案

日時 平成23年10月14日(金)2校時  
指導者 教育センター所員 吉原 正

## 1 単元名 Unit 7 カナダの学校 NEW HORIZON English Course Book 1 東京書籍

### 2 単元について

- 本単元は、異文化についての理解と関心を深めるために、カナダの学校生活を紹介している。ALTの弟でトロントに住んでいるビルと、時差、時間割、放課後の過ごし方などの情報交換をする場面で構成されているため、What time ~?, How many ~?, What do you do ~? など、疑問詞を用いて尋ねる表現が多く用いられている。実際のコミュニケーションでも頻繁に活用するものであり、それぞれの疑問詞の意味や用法について、コミュニケーション活動を通して定着を図る必要がある。
- 本学級の生徒は、各小学校で英語ノートを活用した授業を経験している。音声面を中心としたコミュニケーションに対する積極的な態度が見られ、明るく楽しい雰囲気での学習に取り組むことができる。その一方で、文字を使ったコミュニケーションについては苦手意識を感じている。例えば、教科書の英文を音読しても内容がイメージできなかつたり、身の回りのことを簡単な英語で正しく書くことができなかつたりする場面が見られる。ライティングノートを活用した英作文指導を行い、書くことに少しずつ慣れてきたが、書いたものを使って別の活動につなげるのが課題となっている。

- 指導に当たっては、音声面を中心としたコミュニケーション活動から文字を使ったコミュニケーション活動を展開するために、2つの工夫を行う。

まず、電子黒板を用いた指導を行う。例えば、小学校外国語活動や中学1年生のUnit 4で取り扱われているWhat's this?を用いて、映像と音声を中心としたクイズ形式の導入を行う。そして、What's this?からWho's this?へクイズの質問を変化させたり、画像から文字へ内容を変化させたりすることで、文字に対する苦手意識が軽減されると考える。

次に、複数の領域を関連付けた指導を行う。ライティングノートに自分の考えや気持ちを書く活動を多く取り入れ、それを次の授業や単元末のコミュニケーション活動に生かすように設定する。具体的には、単元末のゴールを「ALTの中学校時の学校生活や放課後の過ごし方について、質問してみよう。」と設定して、学習する疑問詞を用いた質問をライティングノートに用意させたい。新出文法事項を用いた英文を書くことで終わるのではなく、書いたものを次の授業で話したり、友達やALTに読んでもらう活動を取り入れたりすることで、それぞれの活動を有機的に結び付けたい。

これら2つの工夫を通して、質問したり答えたりすることができる力を養う。

### 3 単元の目標

- (1) 身の回りの人や物事について、口頭で質問する。
- (2) ペアワークにおいて、間違えることを恐れず話す。
- (3) Who ~?, What time ~?, How's ~? 等の疑問詞を用いた文の構造を理解する。

### 4 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
ペア活動やクラス全体の活動において、間違えることを恐れずに話している。	身の回りの人や物事について、口頭で質問することができる。		Who ~?, What time ~?, How's ~? 等を用いた文の構造を理解している。

## 5 指導と評価の計画(全5時間)

時間	○ねらい ・学習活動	単元の 評価規準	評価方法
1 本 時	○本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。 ・ warm-up として、カナダの自然、人々の生活に関する写真を示し、知っていることを述べ合う。 ・ 本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。		
	○疑問詞 who を用いた文の構造を理解する。 ・ 疑問詞 who を用いた文の構造を知る。 ・ 教科書本文(Part 1)を通して、 who を用いた疑問文の使い方や応答の仕方について理解する。 ○身の回りの人や物事について、口頭で質問する。 ・ 生徒同士で自分が知らない人の名前を尋ねたり、知っている人を紹介したりする。 ・ 一人を選び、ライティングノートに書く。	エ	後日ペーパーテスト
2	○What time ~?や How's ~?を用いた文の構造を理解する。 ・ 疑問詞 what や how を用いた文の構造を知る。 ・ 教科書本文(Part 2)を通して、What time ~?や How's ~?の使い方を理解する。 ・ What time ~?や How's ~?を用いてペアで応答練習する。その際、ALTに質問する場面を想定する。	エ	後日ペーパーテスト
3 4	○How long ~?や What do you ~?を用いた文の構造を理解する。 ・ 疑問詞 how や what を用いた文の構造を知る。 ・ 教科書本文(Part 3-4)を通して、ALTに質問できそうな表現を探す。 ○ALTの中学校時の学校生活や放課後の過ごし方について、質問を準備する。 ・ ALTの紹介ビデオを見る。 ・ ライティングノートにビデオについて質問したいことを書く。 ・ ペアでALTに質問する練習をする。	エ	後日ペーパーテスト
5	○ALTの中学校時の学校生活や放課後の過ごし方について、口頭で質問する。 ・ ALTに疑問詞を用いた質問を一つ以上する。	ア, イ	活動の観察
後日	〈ペーパーテスト〉 ◇場面を与えて適当な表現を書く問題	エ	ペーパーテスト

## 6 本時の学習

### (1) 本時の目標

知らない人の名前や職業をインタビューしよう。

(2) 本時の指導過程

過程	4技能の関連	学習活動	指導上の留意点	評価規準
導入	聞く・話す	<p>○本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。</p> <p>(1) 自然や文化に関する写真を見て、カナダについて関心をもつ。</p> <p>(2) 単元末に疑問詞を用いてALTに質問することを学ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒とのインタラクションを多く取り入れる。</li> <li>具体を示し、生徒たちがイメージできるようにする。</li> </ul>	
展開	聞く・話す↓読む	<p>○疑問詞 who を用いた文の構造を理解する。</p> <p>(1) 疑問詞 what との比較を通して who を用いた文の構造を理解する。</p> <p>(2) 教科書本文 (Part1) から、who を用いた疑問文とその応答の仕方について理解する。</p> <p>(3) キーワードゲームで新出単語を練習する。</p> <p>(4) 教科書本文の音読をペアで練習する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>what が物, who が人を尋ねる疑問詞であることやその応答の違いに気付かせる。</li> <li>グリーン先生とビルの関係と住んでいる所, 年齢, 職業などの表現を読み取らせる。</li> <li>単語のもつイメージを写真等で補足する。</li> <li>家に帰って一人でも読めることを目指す。</li> </ul>	
	聞く・話す↓書く	<p>○知らない人の名前や職業をインタビューする。</p> <p>(1) 職業の言い方や知らない人を尋ねられたときの応答等を確認する。</p> <p>(2) 知らない人について生徒同士でインタビューをする。</p> <p>(3) 答えと答え方を確認する。</p> <p>○ALTに紹介文を書く。</p> <p>(1) ワークシートから一人選び、名前と職業を紹介する。</p> <p>(2) 紹介したい人をライティングノートに書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>解答は日本語で書き込ませる。</li> <li>インタビューのモデルを示し、イメージをもたせる。</li> <li>まちがいを恐れずに積極的に質問する態度をほめる。</li> <li>誤った表現は修正する。</li> <li>辞書を用意しておく。</li> <li>書き出しが分からない生徒には、ヒントカードを渡す。</li> <li>早くできた生徒には、年齢, 出身など追加させる。</li> </ul>	
まとめ		<p>○ペアで who と what の違いについてまとめ、ワークシートの問題で確認する。</p> <p>○音読の宿題についての連絡と、次時の予告を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>who と what の意味だけでなく、応答の違いも注目させる。</li> <li>ライティングノートにALTのコメントが入ることを伝える。</li> </ul>	エ

(3) 本時の学習評価(形成的評価として行い、統括的評価を後日ペーパーテストを通して行う。)

Who ~?を用いた文の構造を理解している。	
Aと判断する具体的状況	4問全て正解している。
Bと判断する具体的状況	2問以上正解している。
Cへの取るべき手立て	つまづきの原因を次時まで個別に確認する。また、誤答の割合が多い問題については、次時に全体で補足説明をする。